

第二学期始業式式辞

令和5年8月28日

※ コロナ後の夏休み・・・正しい道に向かうことについて

コロナ後の夏休み、充実しましたか。残念ながら台風6号や7号の影響で、せっかくの行事が台無しになってしまったこともあったかもしれませんが、各地で通常通りの夏の風物詩花火や夏祭りが開催されていたようです。それにしても、7月から異常に暑い夏が続いています。国連のグテーレス事務総長が「地球温暖化の時代は終わり、“地球沸騰”の時代が到来した」と危機感を訴えました。実際に日本でも7月の全国の平均気温が統計開始以来最高になったと発表されました。この夏休み、本校では、大きな事故の報告は聞いておりませんので一安心ですが、まだまだ暑い日が続くと考えられるので体調管理は十分に行ってください。

その暑い夏休み、勉強や部活動に励んでいた姿もよく目にしました。野球やサッカーの工業高校大会や吹奏楽部の吹奏楽コンクールは見にいかせていただきました。B部門銅賞と聞いています。若年者ものづくり競技大会で岩城さんは、全国で銅賞となりました。また、防災や環境への取組など行ったことなども聞いています。防災街歩きが、先週の新聞にも紹介されていました。

一学期末に「君たちはどう生きるか」の話題に触れ、頑張ったり努力したりする中で苦しんでいくのは、自分が正しい道に向かおうとしているからだということを話しましたが、実際正しい道に向かおうとしていて苦しいと感じることはありませんでしたか。二学期は、体育祭や文化祭と生徒主体で企画・運営する学校行事もあります。中心となってやればやるほど、ぶつかったりうまくいかなかったりと悩むことも多くなりますが、そんなときこそ正しい道に向かおうとしているから苦しんでいると考え、乗り越えてください。

※ 吉田高校にある70周年モニュメント忠八飛行機・・・飛翔の夢を

さて、吉田高校での新たな発見を一つ紹介します。本館と第三教棟の間に70周年の記念モニュメントがありますね。銀色の円筒鏡に地面の絵が映し出されます。これは、美術の世界ではアナモルフォーシス（歪像画法・ひずみ絵）と言われる手法です。数学の世界では極座標という考え方を使っています。こういう発想で創作された芸術品がここにあるということがすばらしいことです。一番古くは、14世紀にレオナルド・ダヴィンチが絵の中に一定方向からだけわかるものを仕込んだことが始まりで、16世紀ルネサンスの時期に最盛期を迎えたそうです。日本には18世紀に長崎の出島からオランダ人の手によってもたらされました。鞘ってわかりますか。刀を差すものですが、漆で塗った鞘にゆがんだ画を映す鞘絵が日本では残っているそうです。実は、一学期に数学教員の大先輩が来られて、「ここに忠八飛行機があるだろう」と言われるのです。はじめ意味が分かりませんでした。実は、70周年と書かれた上にある絵は忠八飛行機らしいのです。二宮忠八は愛媛県八幡浜市出身で、日本で最初に飛行機なるものの構想を考えた方です。「日本の航空機の父」と呼ばれています。あのライト兄弟が飛行機を飛ばした1903年の14年前にすでに飛行機について考えていたと言われています。70周年は、平成5年（1993年）ですが、このモニュメントや庭園は平成3年に公募がはじまり、当時の建築科の生徒が作成しています。地面のタイル絵には、「飛翔の夢」と書かれてあります。私は、この「飛翔の夢」という言葉が印象に残りました。

二学期は、体育祭や文化祭などの学校行事や部活動では新人大会などがありますし、3年生は進路実現にむけて羽ばたく大切な時です。各種コンテストや発表会の予定もあり、一番忙しく多忙な時期です。それぞれの「飛翔の夢」を描いてください。